

愛しあう人間と神の間に、神の敵である悪魔《サタン》が割り込んできました。狙いは神と人間の間を裂く事でした。いきなり人間に「食べなさい」とは言わず、巧妙にエバを誘惑しました。頃あいを見計らいながら「決して死にません」と真っ向うから神のことは否定しました。

「これを食べれば死ぬどころか、神のようになれるのです。ところが神はあなたがそのようなこと望まないで、死ぬと言って脅しているのですよ」と、まさに悪意に満ちた口実を設けることも忘れません。エバは神のことはとサタンのことばの間で迷いました。

自己（エゴ）愛へ失墜した人間

この木の実は神への感謝と愛をあらわすたった一つの証しです。サタンはあなたがたは、あなたがたはと強調して誘惑してきました。エバは自分が、自分がと自分の事だけを考えさせられ、まるで催眠術にかかるように、神に対する愛を、自分の方に、自分に、と向けて行きました。最終的には、神のようになれる事は自分にとって好ましいと思い、ついにその木の实を食べてしまったのでした。

蛇は女に言った。「あなた方は、園のどんな木からも食べてはならない。と神はほんとうに言われたのですか。女は蛇に言った。私たちは、そのにある木の实を食べて良いのです。しかし園の中央にある木の实について、神は『あなたがたはそれを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたは死ぬといけなからだ。』と仰せになられました。

創世記3：1-3

そこで女が見ると、その木はまことに食べるのに良く、目に美しく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

創世記3：6

チャペル通信 101号

2015年 (福祉特集その3)

杉原千畝特集

主に向かって手を差し上げ、あなたの幼子のために祈れ
彼らはあらゆる街頭で、飢えのために弱り果てている。

哀歌3章19節

敗戦後70年が過ぎた日本で「戦争法案」とも言われる11の法案を安倍政権は多くの反対の声を踏みにじって、強行採決してしまいましたが、その後もこの法案の停止を求めてデモが行われています。この時期にあらためて、命の大切さの意味を問い続ける必要があると思います。

今年のノーベル平和賞はチュニジアの団体に決定しましたが、日本の団体も予想の中に取り入れられていました。戦後一度も戦争で人を殺す行為をしたことのない日本と日本人は、憲法9条を持っているためであるので「憲法9条とその憲法を持つ日本と日本人にノーベル賞を」という発案を相模原市のひとりのクリスチャンの主婦がしました。2014年から署名が始まったのです。昨年・今年と申請が出されました。

「平和を作り出す人は幸いです。」とイエス様はいわれました。その言葉どおりに、自分の命の危険をも恐れずにユダヤ人6000人の命を救った日本人がいました。日本のシンドラールとも言われる杉原千畝さんです。福祉の精神は、聖書では隣人愛として示されています。今回は映画の公開に合わせて自分が法を犯してまで人の命を救う行動に出た杉原千畝さんを紹介しします。その行動の原点とはなんであったのでしょうか。

今年12月5日から全国でロードショー公開されている映画があります。ぜひご覧ください。次の世界記憶遺産には杉原千畝さんの行動がおそらく登録されると思います。



〒213-0023 川崎市高津区子母口776

編集

日本同盟 子母口キリスト教会

発行

基督教団 e-mail shibokuchi@church.jp
牧師 小岩井 信 <http://shibokuchi.church.jp/>
電話 044-766-0181 F A X 044-766-2157



定期集会

どなたでもおいで下さい

(日) 礼拝と学び	10:30~12:10	(水) 聖書の学びと祈禱会	19:30~
教会学校	13:30~14:30		
夕 拝	19:30~	(金) 聖書の学びと祈禱会	10:00~

世界は大きな車輪のようなものですから、対立したり争ったりせずに、みんなで手をつなぎあって回っていかねばなりません。

杉原千畝

生い立ち

1900年(明治33年)岐阜県の八百津町に生まれました。愛知県立第五中学を卒業、父親は医者になることを望んでいましたが、英語を学ぶために**早稲田大学高等師範部英語科**(現早稲田大学教育学部英語英文学科)に1918年入学しました。親からの学費の援助がなく千畝は、牛乳配達をしながら勉学に励みました。この貧乏学生を支えたのは、**早稲田奉仕園**につながる友愛学舎でした。千畝はここで**聖書に触れていました**。しかし生活の苦しさから勉学を断念せざるを得ない状況に追い込まれていました。その時 外務省の留学生試験を知って、自分の学問分野とはかけ離れた難問を猛勉強でクリアして、1919年千畝は**ハルピン**に留学。そこでロシア語を学びました。露和辞典を二つに割いてポケットにいれて、1ページ暗記出来たら捨てていくというような努力でロシア語をマスターしていきました。この語学力が千畝の人生を大きく変えたのでした。



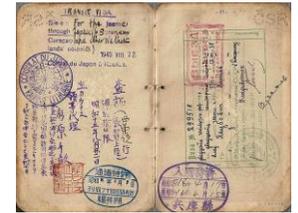
結婚
離婚
再婚

ハルピンにいた頃1924年に白系ロシア人と結婚しました。そのときに**ロシア正教で洗礼を受けました**。しかし1935年に離婚しました。離婚は当時満州国を支配していた関東軍が妻クラウディアをスパイという風説風説を流した為でした。そして全財産を妻のクラウディアに譲り**外交官を辞職**しました。無一文になった千畝は池袋に住み、そこで知人の妹の菊池幸子と結婚しました。

任地
カウ
ナス

1937年外務省に再就職した千畝はモスクワを希望したのに①ヘルシンキに赴任しました。前妻との関係から共産党政府が拒否したためでした。1938年千畝は日本人が一人もいないカウナスに赴任しました。(地図②)背後にドイツと日本政府の思惑が働いたためでした。

カウナスにはユダヤ教の神学校があったのでユダヤ人が多く住んでいました。オランダはナチスに対し反駁していましたが、在カウナスオランダ領事がオランダ領への通過ビザをタイプ印刷して日本領事館に持ち込んでいました。ナチスのユダヤ人迫害が進むなか、トルコ政府がビザ発給を拒んだため、トルコ経由での祖国の地パレスチナへの脱出が不可能となり、シベリア鉄道経由でオランダ領へ行けるビザを求めようになりました。1940年7月18日100人余りのユダヤ人は千畝がいる領事館に殺到しました。



命の
ビザ

千畝は日本政府の役人として遵法の立場と人間としての良心の葛藤に苦しみながら、人間としてなすべきことをしたのです。千畝は眠る時間をも惜しんで、日本経由のビザを書き続けました。ペン先が壊れた万年筆にインクをつけて1200あまりのビザを発行しそのビザで出国した人は**6000人**に及びました。戦後帰国した千畝には外務省は退職通告を發し千畝は依願退職をしたのです。千畝の行動は1969年イスラエルで勲章が送られ、世界の人々の方が先にその行動を称えました。



杉原千畝記念館
八百津町



クリスマスは教会で どなたもおいで下さい

- 12月20日(日) クリスマス礼拝 10:30~
- クリスマス愛さん会 12:30~
- キャロリング 14:30~
- 12月24日(木) クリスマス燭火礼拝 19:30~



DVDを
観る会
1月
31日
13:30
~
15:00

激動の20世紀を生きた

3人のクリスチャン

会場 教会2階 無料です。

茶菓用意あります。

